

1. まえがき

たいへいようです。？。本種の漁獲量は、マイワシとは対照的に 1990 年代に増加した。対馬暖流域においても、1990 年代後半にかけて漁獲量が増加したが、2001 年に急減し、その後は増減を繰り返している。しかし、本種の漁獲量の変動幅はマイワシほど大きくない。これは、マイワシと比較して親魚になるまでの期間が短いことや、ほぼ周年にわたり産卵を行うことなどが要因と考えられる。

東シナ海や日本海に分布するカタクチイワシは、韓国や中国によっても漁獲されているが、これらの主な分布域は韓国と中国の沿岸域であるため、対馬暖流系群とはみなさず、本資源評価では考慮しなかった。